

(1)

ABSTRACT of UTILITY MODEL LAID OPEN PUBLICATION  
 Japanese Publication No. Showa-52-51976  
 Published Date: April 14/Showa 52 (AD1997)

Title of Utility Model      Joint for Furniture

Application Number	Showa-50-138138
Application Date	October 9/ Showa 50 (AD1995)
Applicant	Seiko Co., Ltd
Inventor	Kazunori Akiyama

(Abstract)

A joint for furniture comprises a receiving sleeve 4 and a connecting shaft 6 to be inserted into the receiving sleeve 4. The receiving sleeve 4 has a tapered inner face whose diameter becomes gradually large toward an entrance of the sleeve 4. A part of the connecting shaft 6 to be inserted into the sleeve 4 has a diameter being smaller than the tapered inner face of the sleeve 4. A head of the connecting shaft 6 is provided with a flexible hook 8, and the flexible hook 8 is bent so as to put into contact with the inner face of the sleeve 4 when the connecting shaft 6 is inserted in the inner face of the sleeve 4.

Fig. 1

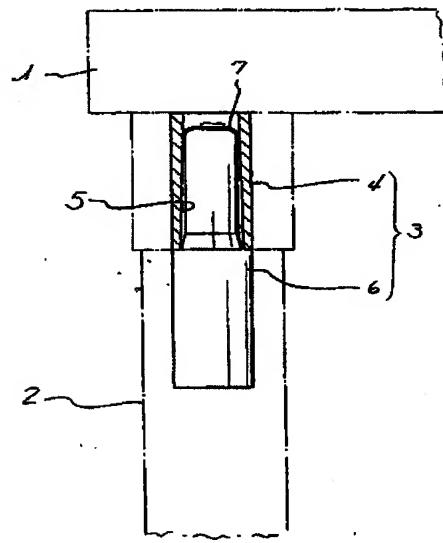
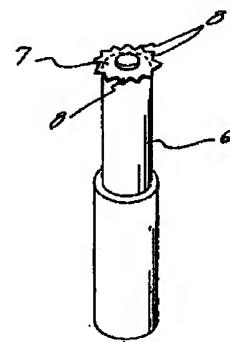


Fig. 2



(1)

⑩日本国特許庁

⑪実用新案出願公開

## 公開実用新案公報 昭52-51976

⑩Int.Cl<sup>2</sup>F 16 B 7/20  
F 16 B 12/00

識別記号 ⑩日本分類

53 E 22

庁内整理番号 ⑩公開 昭和52年(1977)4月14日

6473-31

審査請求 未請求

## ⑩家具等の連結具

⑩実 願 昭50-138138

⑩出 願 昭50(1975)10月9日

⑩考 案 者 秋山和則

枚方市長尾家具町2の3の10

⑩出 願 人 株式会社星高  
同所

## ⑩実用新案登録請求の範囲

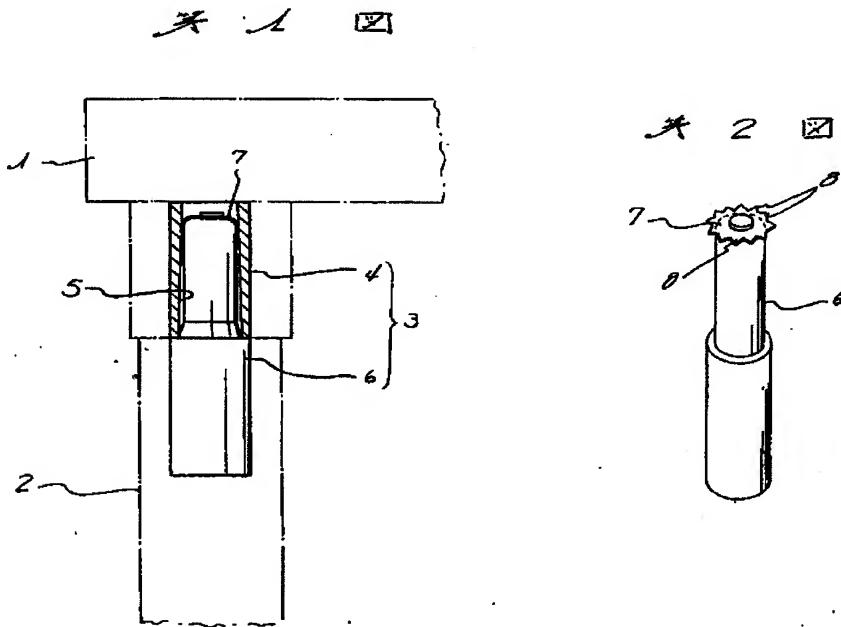
2つの連結部材に対向して取付け固定すべき受

筒4と連結軸6とから構成され、受筒4には開口が大径の連結孔5を形成すると共に、連結軸6は前記連結孔5に遊嵌する太さを有し且つ先端には、連結孔5の内面に係止する複数の鈎片8を外周に突設した鈎板7を取付けて成る家具等の連結具。

## 図面の簡単な説明

第1図は使用状態を示す断面図、第2図は連結軸の斜視図である。

3…連結具、4…受筒、5…連結孔、6…連結軸、7…鈎板、8…鈎片。



## 公開実用 昭和52-151976

(1)



1000-

## 実用新案登録願

昭和50年10月4日 沖

## 特許庁長官 聞

カグトウ レンタツグ  
家具等の連結具

## 2 考案者

住所 大阪府枚方市長尾家具町2丁目3番10号

氏名 秋山和則

## 3 実用新案登録出願人

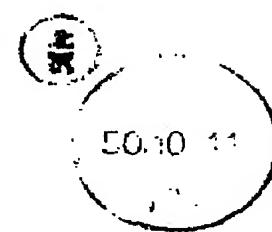
ヒラカタシナガオカグマツ  
住所 大阪府枚方市長尾家具町2丁目3番10号氏名 株式会社 星高  
アキヤマカズノリ  
代表取締役 秋山和則

## 4 添附書類の目録

山明 横書 / 通 審査

四圖 画面 / 通 審査

図面書の原本 / 通



50-108138

## 明細書

1 考案の名称 家具等の連結具

2 実用新案登録請求の範囲

2つの連結部材に対向して取付け固定すべき受面(4)と連結袖(6)とから構成され、受面(4)には端口が大径の連結孔(5)を形成すると共に、連結袖(6)は前記連結孔(5)に連続する太さを有し且つ先端には、連結孔(5)の内面に係止する複数の歯片(7)を外周に突設した钩板(8)を取付けて成る家具等の連結具。

3 考案の詳細を説明



本考案は家具、農機具或いは機械器具の如き諸々の部材の結合に使用する連結具に関する。

従来、特にスチール製品等においては、完成された部材を一組として供給し、小売店或いは購買者がそれを組立てゝ製品を完成することが行なわれている。

しかし、所る部材の組立てには、通常はボルト、ナット或いはビス等の部品及びそれ等の

# 公開実用 昭和52-151976

締付け具を要するのみならず、組立て作業に多大の手数が掛かる不便があつた。

本考案は極めて簡単な構成により、連結に特別な部品及び締付け具を使わず簡単な操作で強固な結合を実現し得る実用上便利な連結具を提供するものである。

以下図面に示す実施例に基づき本考案を具体的に説明する。

第1図はスチール製家具の一部を示したもので、天板或いは受板等をなす平板①と支柱②との結合部に本案に係る連結具③を使用している。

上記連結具③は、平板①に取付け固定した受面④と、支柱②の端部に取付け固定した連結端⑤とから構成され、前記受面④は、側面部が大径のテーパを有す連結孔⑥を形成して連結端⑤を嵌挿すべくなす。

連結端⑤は、前記連結孔⑥に適合する長さだけ支柱②から突出し且つ孔⑥に遮蔽する太さを有すと共に、先端には钩板⑦を取付

ける。

鉤板④は焼入れ鋼板等を以てなし、連結孔⑤を孔⑤中へ嵌挿したとき、鉤④先端が対応する孔⑤内径よりも所定度大径の円板の外周縁に鋸歯状の複数の鉤片⑥を突設したものである。

然して、本案連結具③は、受商④及び連結鉤⑥を平板山、支柱②の要所に接着等により一体に取付けて締結めをし、板壳に供する。

小売店或いは購買者がそれを組立てるには支柱②の連結鉤⑥を鉤板④側から平板山の受商④中へ嵌挿する。このとき、前記鉤板④は、連結孔⑤に対し開口部では余裕があるが、深く挿込まれるにつれて各鉤片⑥の先端が孔⑤内面に沿い開口端に向けて屈曲し、各々貴材の弾性により連結孔⑤の内面に係止して一休結合し、両部材①②を連結保持するのである。

尚、図面では連結具③を平板山と支柱②

# 公開実用 昭和52-151976

の連結に使用したが、これに限らずあらゆる形状の部材結合に使用出来る。

本考案は上記の如く、連結孔<sup>4</sup>を有する受<sup>2</sup>と、先端に钩板<sup>7</sup>を取付けた連結輪<sup>6</sup>とから構成したから、受<sup>2</sup>の連結孔<sup>4</sup>に連結輪<sup>6</sup>を嵌挿するだけで、钩板<sup>7</sup>の各钩片<sup>8</sup>が連結孔<sup>4</sup>の内面に弾圧保止し、依つて2つの部材間を簡単且つ強固に一体結合出来る实用上の効果を有す。

#### 4 図面の簡単な説明

第1図は使用状態を示す断面図、第2図は連結輪の斜視図である。

(3) 連結具 (4) 受 (5) 連結孔  
(6) 連結輪 (7) 钩板 (8) 钩片

出願人 株式会社

品 開



公開案用 昭和52-1519

図 1

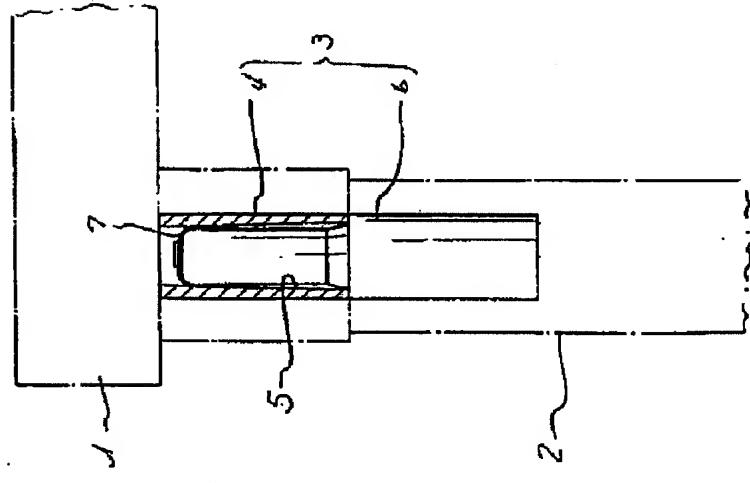
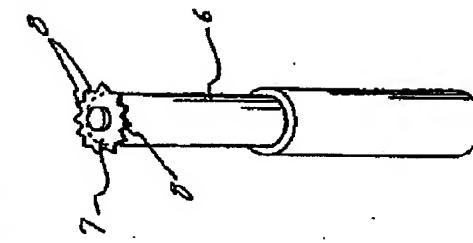


図 2



51976

発明人	株式会社 里高
-----	---------